

# 福高生が 串間の魅力をご紹介！

## 串間の魅力をご紹介！

福島高校2年生の財津さん、川野さん、原さんが10月31日から11月7日にかけて、串間市役所でインターンシップを行いました。

今回のインターンシップの感想と串間の魅力を3名がご紹介。



川野  
理李さん

商工観光スポーツランド推進課



私は4日間、インターンシップで串間市役所に行きました。最初は、緊張と不安でいっぱいでしたが、商工観光スポーツランド推進課の方々をはじめ、いろいろな方が親切に優しく声をかけてくださり、1日目から安心して取り組むことができました。

私は商工観光スポーツランド推進課のお仕事を実際に体験させてもらいました。

観光スポーツランド推進係では、主に観光施設の管理やお客様に届くような情報発信を行っています。高松キャンプ公園やいこいの里に同行させていただき、道の駅くしまBCP策定の協議にも参加させていただきました。協議では国・市・道の駅が、災害発生時に防災機能を迅速かつ円滑に対応できるように話し合っており、組織同士のつながりやコミュニケーションはとても大事なことだと感じました。私の市役所のイメージはかたい事務系の仕事のイメージがあつたので、外に出る機会が多くあることを知り驚きました。

商工係では、主に商工業者への補助や労働力不足の解消に向けた取り組みを行っており、福島高校での企業説明会のアンケート集計や地区ごとの回覧板に入れるチラシの仕分けなどの事務作業をさ



原  
勇雅さん

国民スポーツ大会推進課



皆さんはここにちは、福島高校2年生の原勇雅です。

私は、地元串間市に生息する都井岬の馬の魅力について紹介したいと思います。私が都井岬の馬を選んだ理由は、串間市在住でも実際に見たことがない方が意外に多いのではないかと思ったからです。この記事を読んで、少しでも「都井岬の野生馬を見に行こうかな」と思ってもらえるとうれしいです。

都井岬の野生馬は、宮崎県の最南端に生息する日本在来馬の一種です。正式には「御崎馬」や「岬馬」と呼ばれ、国の天然記念物にも指定されています。現在ではおよそ100頭が岬の草原で自由に暮らしており、その姿はまるで昔の日本の風景を見ているようです。放牧されているわけではなく、完全に野生の状態で人との距離を保ちながらのびのびと暮らしています。都井岬は太平洋を見下ろす美しい景色が広がる場所で、春には緑の草原、冬には冷たい海風の中を歩く馬たちの姿を見ることができます。その雄大な光景は訪れる人々を魅了し、観光地としても人気があります。岬馬が人に無関心なのは、長年地元の人々が温かく見守ってきたからです。馬に近づきすぎないよう注意しながら観察ができるよう、ル

ルを定めて共存を続けています。ぜひ実際に見たことがない方は見に行つてみてください。

私はこのインターンシップで国民スポーツ大会推進課にお世話になりました。令和9年度に宮崎県で開催される国スポーツ大会まで走行したりしました。また、串間市の正式競技の一つ、「ロードレース」の競技用自転車「ロードバイク」に乗り、今回紹介した都井岬の灯台から御崎神社まで走行したりしました。

インターナンシップを通して、地元の魅力を改めて感じ、知り、それを発信することの大切さを学びました。また、写真や資料だけでは分からることを体験し、物事を自分で確かめていくことの大切さに気付きました。

この体験を生かして今後は興味を持ったことに積極的に挑戦していきたいです。



皆さんこんにちは、福島高校2年の財津楓です。私は4日間、市役所の総務課秘書広報係と選挙管理委員会で、インターンシップを体験しました。

最初は、市役所というと窓口での対応が中心というイメージをもっていましたが、実際に働く職員の方々を間近で見ると、その仕事の幅広さや地域を支える重要な役割を担っていることを実感することができました。

はじめに秘書広報係では、市の広報紙「広報くしま」がどのように作られているのかを学びました。取材や写真撮影後に原稿作成、レイアウト確認などを行い、締切日までに校了させます。毎月の広報紙を市民のもとへ届けるという強い意思を感じました。また、来客対応の場面を見学し、相手に対して丁寧な言葉遣いや姿勢を保つことの大切さを感じました。特に状況に応じた対応力が求められる点が印象的でした。

次に選挙管理委員会では、選挙のマニュアルに追加の記入をする作業をパソコンで行ったり、串間市内にある32カ所の投票所を実際に見てまわつたりしました。投票所は思ったよりもさまざまなものにありました。中には少しづつ見たり、当日スムーズに運営するところもあり、当日スムーズに運営するところがありました。

はじめに秘書広報係では、市の広報紙「広報くしま」がどのように作られているのかを学びました。取材や写真撮影後に原稿作成、レイアウト確認などを行い、締切日までに校了させます。毎月の広報紙を市民のもとへ届けるという強い意思を感じました。また、来客対応の場面を見学し、相手に対して丁寧な言葉遣いや姿勢を保つことの大切さを感じました。特に状況に応じた対応力が求められる点が印象的でした。



財津  
楓さん

総務課



皆さんはここにちは、福島高校2年の財津楓です。私は4日間、市役所の総務課秘書広報係と選挙管理委員会で、インターンシップを体験しました。

最初は、市役所というと窓口での対応が中心というイメージをもっていましたが、実際に働く職員の方々を間近で見ると、その仕事の幅広さや地域を支える重要な役割を担っていることを実感することができました。

はじめに秘書広報係では、市の広報紙「広報くしま」がどのように作られているのかを学びました。取材や写真撮影後に原稿作成、レイアウト確認などを行い、締切日までに校了させます。毎月の広報紙を市民のもとへ届けるという強い意思を感じました。また、来客対応の場面を見学し、相手に対して丁寧な言葉遣いや姿勢を保つことの大切さを感じました。特に状況に応じた対応力が求められる点が印象的でした。

はじめに秘書広報係では、市の広報紙「広報くしま」がどのように作られているのかを学びました。取材や写真撮影後に原稿作成、レイアウト確認などを行い、締切日までに校了させます。毎月の広報紙を市民のもとへ届けるという強い意思を感じました。また、来客対応の場面を見学し、相手に対して丁寧な言葉遣いや姿勢を保つことの大切さを感じました。特に状況に応じた対応力が求められる点が印象的でした。

最初は、市役所というと窓口での対応が中心というイメージをもっていましたが、実際に働く職員の方々を間近で見ると、その仕事の幅広さや地域を支える重要な役割を担っていることを実感することができました。

最初は、市役所というと窓口での対応が中心というイメージをもっていましたが、実際に働く職員の方々を間近で見ると、その仕事の幅広さや地域を支える重要な役割を担っていることを実感することができました。